

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	パレット			
○保護者評価実施期間	令和7年1月6日 ～ 令和7年1月20日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19	(回答者数)	15
○従業者評価実施期間	令和7年1月6日 ～ 令和7年1月20日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数)	9
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月12日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	支援開始前及び支援終了後の情報共有	支援開始前ミーティングにおいてその日に行われる支援内容や役割分担について話し合い、互いに確認している。支援終了後は終礼を行い、その日の支援の振り返りや気づいたことの共有をしている。	重要事項をヒヤリハット等の記録に残し、公休日のスタッフにも共有するよう常勤職員が中心となり注意喚起する。
2	保護者との意思疎通	日頃から利用児童の事業所での様子を保護者に伝えたり、保護者から家庭での様子を聞いたりしながら、利用児童の発達の状況や課題について保護者と事業所が共通理解を持つよう努めている。	電話や連絡帳を活用し、保護者の悩みを定期的に聴取し、助言等を行う。
3	個人情報の取り扱い	個人情報の取り扱いについて契約時に保護者から書面による了承をいただいたり、職員に対し個人情報の取り扱いや守秘義務についてスタッフ会議を通じて注意喚起したりしている。	写真の取り扱いやSNSなど問題を提起し、会議で積極的に話し合っていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	活動プログラムが固定化しないような工夫	発達障害があり、好きな活動や苦手な活動が決まっていたり、個別の対応をしているため活動が固定化しやすい。	スタッフの思い込みで活動を固定化させていないか、参加できないと決めつけていないかスタッフ会議で話し合う。難しいかもしれないが、普段しない活動にも誘ってみる。
2	放課後児童クラブや児童館との交流	特別支援学校の生徒が9割以上おり、放課後児童クラブとの接点がない。	コミュニティセンターの図書室は普段から利用しているので、コミュニティセンター主催行事に参加し、障がいのない子どもと接する機会を増やせないか検討する。
3	父母の会の活動支援や保護者会の開催	保護者が就労しており集まれる時間がなかったり、法人の定期総会も委任状出席がほとんどであり、父母の会を開催する機会がない。	定期総会の前に活動報告会を設け、スライドで日々の活動の様子を報告するとともに、保護者同士が顔を合わせたり、支援の様子をみていただけるような機会を検討する。